



IGC No. 2

事務局ニュース 第29回IGC事務局

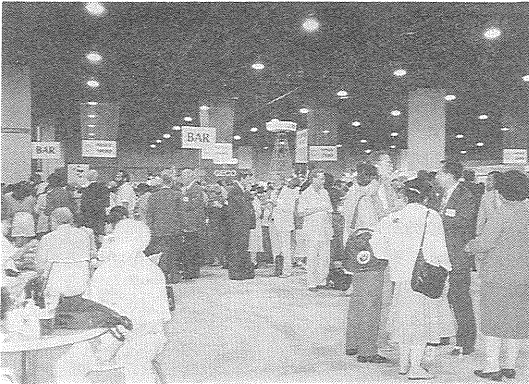


写真1 いかにもアメリカ風のリラックスしたオープニングパーティ（ワシントン、コンベンション・センター）

第29回 IGC（京都）に期待する ——第28回 IGC 参加者のアンケートより

去る7月に開かれた第28回 IGC ワシントン大会には、最終的には日本から約130名の参加者がありました。IGC事務局では、これらの方々に、今回の会議の運営について感じられたこと、考えられたことを直接お聞きし、第29回IGC京都大会の参考にしたいと考え、下の様なアンケートを実施しました。

第28回 IGC の運営に関するアンケート

I. 本会議

1. 参加したセッション及び参加者概数
2. 参加セッションの運営状況
3. その他

II. 巡検

1. 参加したコースと参加者数
2. 参加コースの運営状況

III. ポスターセッション及び展示会の印象

IV. その他

V. 第29回 IGC へのご意見、要望等

配布数：76名（事前登録者リストのうち連絡先の分った方々）
回収数：46名

紙面の都合で、詳しい内容は示せませんが、貴重なご意見の抜粋を以下に紹介致します。御協力頂きました方々に、厚く御礼申し上げます。

第28回 IGC 運営に関するアンケート結果（抜粋）

I. 本会議

1. 参加したセッション及び参加者概数

＜たくさん詳しい回答を頂きましたが、紙面の都合で割愛させていただきます。＞

2. 参加セッションの運営状況

＜全般的には円滑に運営されていたという回答が多かったのですが、特に後半キャンセルが多かったことについて――＞

—キャンセルがかなり多く興味をそがれた。セッションによっては20%～50%がキャンセルされた。

—キャンセルが非常に多かったのは、セッション数が多過ぎた為ではないか。

—会場は広いが聴衆は10人程度、しかもコンビーナの1人は不在で惨たんたるものであった。

—コンビーナを受け持ったが、キャンセルを自演、他演で穴埋めしなければならなかった。

—セッションのタイトルが魅力的だけでは良い発表者は集まらない。母体となってセッションをリードする研究グループが必要だ。セッションを厳選せよ。

＜一方、コンビーナが事前に良く連絡を取っていたセッションでは、成功裏に会議が行われた模様です。＞

—コンビーナが精力的なセッションはまとまりが良い。

—1年4ヶ月前にコンビーナから参加要請があり、8ヶ月前には要旨が配布された。良く組織され、会議も盛況であった（講演数29、キャンセル1）。

—前以てオーガナイザーから講演者に、セッションの趣旨、講演の要旨、出版等の後始末について連絡があった。最低この程度の準備が必要。

—IGCP や ICL 等の国際研究組織の準備したセッションでは参加者も多く盛況だった。

—国際プロジェクトのまとめのセッションは大成功だっ



写真2 アパラチア巡検 (T152) で説明中のルディとケヴィン

た。この類のプログラムを増やすべきだ。

3. その他

- サイエンティフィック・シアターはいつも満員(100~200人)で、キャンセル時の息抜きになった。
- あるセッションでは口頭発表、ポスターセッション、レセプションが2日にわたり同一会場で開かれ、盛況だった。仲なか良い形式で、考える価値がある。
- 「英語をゆっくり話そう」という指示は余り守られていなかった。英語圏の人同志の討論はフォローが困難。座長が通訳している場面もあった。
- キャンセル防止策や予備講演を考える必要がある。

II. 巡検

1. 参加したコースと参加者数

<紙面の都合で省略致します。>

2. 参加コースの運営状況

- <巡検の運営は、どれも概ね好評だったようです。>
- 至れり尽くせりだった。案内・宿泊など、良く手配されていた。
- USGS のメンバーが非常に功く運営していた。リーダーの気配りが印象的だった。



写真3 巡検での昼食

- 毎晩討論の時間もあり、地質屋らしいよく組織された巡検だった。
- 参加者は少なかったが良く準備され、familiar で良かった。広大な自然を見学するという配慮も良い。
- 地質だけでなく、観光的な場所も含まれているのが良かった。
- 70歳以上の方々が leader を務めていたのは印象的だった。
- 大学や学生の車を使って、経費を安くする努力をしていた。リーダーが自ら車を運転し説明していた。
- ストーリー(哲学)に沿って、それを証明する良い露頭をみせられ印象的だった。日本でもできるだろうか。
- <一方、運営上の幾つかの問題も指摘されていました。>
- 露頭での討論時間が殆ど無かったり、stop の多くが割愛されたものもあった。
- 良好。ただし集合場所が先方に着いてから変更されたことが分かり、面食らう。
- 説明・ガイドブックもやや形式的で不親切だった。
- 事前に宿泊先ホテルが知らされなかったり、巡検中も連絡不備があったりした。
- 参加者が少ないのは費用が高いせいではないか。
- 巡検のテーマと必ずしも直接関係ない参加者も多かった。
- 3rd Circular 後もキャンセルされた巡検が多かった。

III. ポスターセッション及び展示会の印象

- <ポスターセッションについては様々な意見があるようです。展示方法に工夫が必要だと思います。>
- 各国の同一テーマの研究状況が把握でき良かった。
- 閑散としていた。聴衆を呼びこむ工夫が必要だった。
- 口頭発表と並行していたので、集中せず議論が少なかったようだ。
- 1対1の対応しか出来ない割に場所をとり感心しない。
- 十分な討論ができ、目的意識的な参加者には有益だ。
- 展示方法は日本の学会にくらべ数段上であった。日本で同じようにやるのは難しいか。
- 3枚のボードで広過ぎる程。ブースになって空間が使いやすい。
- 学会の前半で閉じて、後半会場が移動したのは残念。
- <展示会はかなり好評だったようです。>
- 多数の展示は毎日見ても飽きず楽しかった。
- 岩石や地質図が無料で配布され、安い買物もできて楽しかった。書籍販売は割引もあり好評だった。
- 京都 IGC ブースでは観光パンフのみを配っていたが、もっと会議の宣伝をする必要があったのではないか。
- 広々とした大部屋で、カフェテリア等も配置されて良

- かった。会場の地図があるともっと良かった。
- 機器の展示は殆どなかった。
- ポスターセッションと展示の会場は別の方が良い。
- 各国の地調・大学・研究所の意欲的な展示が印象的。日本でも大学や地質教室の展示コーナーを持つことは難しいだろうか。

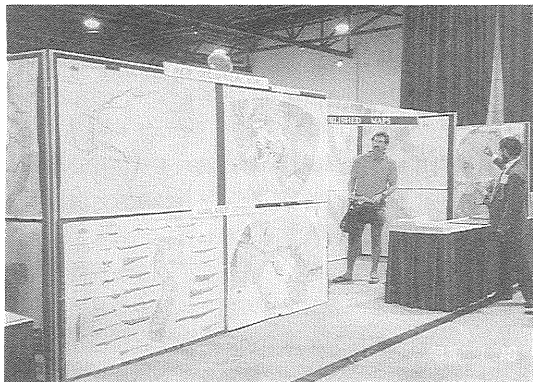


写真4 ポスターセッション風景

IV. その他

- 講演要旨集にはプログラムがついてなく、不便だ。ボリューム的にも大きすぎ、字数もまちまちで不便だ。人名順でなく、セッション毎にまとめて欲しかった。
- 仮設郵便局の撤去が早すぎた。また小荷物の取扱い等受付がスムーズでなかった。
- 売店では土産物だけでなく、文具などの必要品も売ると良かった。
- 日刊 Gazette は大変好評だった。
- スライドセンターではリハーサルもできた。是非日本でもやって欲しい。
- ワシントンでは多数のボランティアが種々の援助をしてくれて助かった。

V. 第29回 IGC へのご意見、要望等

- たくさんの方の、しかも建設的なご意見を頂きました。以下には主なものだけ掲載します。>
- 多くの方が主体的に参加できるよう配慮願いたい。
- 「お祭」でも相応の意義があると思う。
- 世界中の人達が何を期待して来日するかを配慮すれば概ね喜んでもらえよう。
- 講演の取消しを少なくする努力が必要。

- 講演内容がセッションのテーマに沿ったものにするため、数をしぼると良い。
- 外国のコンビナーは必ずしも信用出来ない。欠席もあった。セッションの人集めは外国の研究者の魅力だけに頼るべきではない。
- ポスターセッションを大幅に増やし、口頭発表と重複しないようにすると良い。
- 重要なセッションには2～3人の招待講演者を入れ、議論を盛り上げると良い。
- ワシントンと同等かそれ以上にするのは大変。日本独自の運営が必要。
- 広いスペースを如何に確保するか。展示会等の案内表示を親切にできるとよい。
- 全体として10日間は長いのではないか(副会長の L. T. Silver もいっていた)。
- 長期(10日間)の巡検は少なくし、1～2日の short course を多くすべき。
- Concurrent Session でテーマの重複を避けること。
- 先ずは集金、アトラクティブなセッション・ワークショップ・巡検を望む。
- Abstracts は字数を減らすとかセッション索引を付ける等、工夫して欲しい。
- 日本の物価高(交通費、宿泊費)の心配が多い。何等かの対応ができると良い。
- レディース・プログラムも含めて、国際感覚のある人達の企画参加が是非必要。
- ジオホストは日本でも可能か。せめて夕食に招待するなど。
- 外国語を話せるボランティアを多数募る必要がある。
- 会議中の各種連絡・応答を速やかにできるシステムをつくること。
- 主要外国語による生活ガイドブック等があると便利。
- 「日本文化」、「日本美術」をテーマとした「巡検」を複数の英国人から要請された。会議だけだと来日のふんざりがつかないという。
- closing ceremony では盆踊りと花火をやって欲しい。
- 500ドル以下の安い巡検を多くして欲しい。
- 巡検は scientist 用か tourist 用か明示した方が良い。専門巡検を期待した者にとって、観光用は耐えられない。しかし、サンプルはもちろん、写真も撮らず、ガイドブックも見ない参加者もいた(日本人以外)。

(文：小玉喜三郎，写真提供：井内美郎)